

| 見直し項目  |     | 背景  | 対応案   | メリット                                     | 課題                                    |
|--|-----|---|---|--|---------------------------------------|
| 補助率<br>【つつじ 10/10】<br>【くすのき 1/2】<br>【ハード 85~90%】           | 1 B | ・自己負担分(事業費の1/2)を工面することが難しい。<br>・10/10補助の【つつじ】から1/2補助の【くすのき】では条件の変化が大きい。     | 1.補助率を上げる。  | 団)自己負担が少なくなる。                            | 団)補助金に頼った運営を助長する。                     |
|  |     |   | 2.補助率を最初は高くし段階的に引き下げる。<br>例)1年目60%(2/3)→2年目50%(1/2)→3年目40%(1/3) | 行)3年間トータルで考えれば変わらない。<br>行)団体の自主運営を促しやすい。 | 行)交付できる団体数は減る。<br>行)2年で終われば、市の負担は増える。 |
|  |     |   | 3.現状どおり。  |  |                                       |
| 限度額<br>【つつじ 5万円】<br>【くすのき 30万円】<br>【ハード 85万円】              | 2 A | ・大きな事業を行うには、費用がかかる。<br>・自己負担が必要であり、大きな事業を行える団体は限られる。                        | 1.限度額を上げる。  | 団)大きな事業では自己負担が少なくなる。                     | 団)補助金に頼った運営を助長する。                     |
|  | B   |   |   |  | 行)交付できる団体数は減る。                        |
|  | C   |   | 2.現状どおり。  |  |                                       |
| 補助回数<br>【つつじ 1団体1回】<br>【くすのき 1事業3回】<br>【ハード なし】            | 3 A | ・活動の継続のため、継続した支援を求めている。   | 1.回数を増やす。   | 団)事業を継続しやすくなる。                           | 団)補助金に頼った運営を助長する。                     |
|  | B   |   | 2.現状どおり   |  | 行)交付できる団体数は減る。                        |
| 設立年数による制限<br>【つつじ 設立2年未満】<br>【くすのき 設立2年以上】<br>【ハード 設立2年以上】 | 4 A | ・補助金を知った時には、設立年数で申請ができなくなっていた。  | 1.設立からの制限年数を延長する。<br>例)【つつじ】設立5年未満                              | 団)申請する機会が増える。                            |                                       |
|  |     |   | 2.現状どおり   |  |                                       |
| 対象外経費<br>【団体構成員への支払い×】                                     | 5 A | ・団体内で通訳・手話等の技能を持った方への謝礼が払えない。<br>・ボランティア活動での交通費などが個人の負担となっている。              | 1.団体構成員への経費も対象とする。  | 団)個人負担・団体負担を軽減できる。                       | 団)「ボランティアは無償」という考えを持っている団体もある。        |
|  | B   |   |   |  | 行)なにをどこまで認めるか整理が必要。                   |
|  | C   |   | 2.現状どおり   |  |                                       |
| 申請書類   | 6 A | ・書類作成を難しく感じている。<br>・同じような内容を複数回書かせている項目もある。                                 | 1.申請書類を簡素化。<br>例)「計画書」「効果分析書」と1つにする。                            | 団)書類作成の負担が軽減。                            | 行)簡素化すれば審査は難しくなる。                     |
|  | B   |   | 2.補助金の種類によって申請書類を変える  | 団)書類作成の困難度と補助金額が比例。                      | 行)審査方法・項目の変更が必要。                      |
|  | C   |   | 3.現状どおり   |  |                                       |
| 申請機会の複数化<br>【通常は年1回】                                       | A   | ・年に1回の申請受け付けでは、新たな活動の機会が限られてしまう。  | 1.申請機会を増やす<br>例)【つつじ】年2回 4月・10月開始事業                             | 団)新たな活動のきっかけになる。                         | 行)審査回数の増。                             |
|  | B   |   | 2.現状どおり   |  |                                       |
| ハード補助金の方向性   | C   | ・年間2~7件の申請がある。<br>・財源であるMINTO拠出金が終了予定(H24またはH25)<br>・施設整備は使用料等受益者負担では賄えにくい。 | 1.財源終了に伴い、ハード補助金も終了。  |  | 団)全て自己負担で行わなければならない。                  |
|  |     |   | 2.【つつじ】・【くすのき】の財源を利用し、【ハード】を存続。                                 | 団)自己負担を増やすことなく取り組める                      | 行)【つつじ】・【くすのき】への交付が減る。                |
|  |     |   | 3.【くすのき】対象経費に【ハード】対象経費(「工事請負費」等)を追加。                            | 団)ソフト・ハード一体となった事業が可能になる。                 | 団)【くすのき】の補助率・限度額となる。                  |
| 他の補助金の交付<br>【他の補助金を受ける×】                                   | A   | ・他の補助金を得ることも、団体の努力と認めてほしい。  | 1.市以外の補助金の交付は認める。   | 団)自己負担が少なくなる。                            | 団)補助金に頼った運営を助長する。                     |
|  | B   |   |   | 行)市の負担も少なくなる可能性がある。                      | 行)精算方法の検討が必要                          |
|  | C   |   | 2.現状どおり   |  |                                       |

資料1  
○市民活動団体からの意見  
1. 補助率  
2. 限度額  
3. 補助回数  
4. 設立年数による制限  
5. 対象外経費  
6. 申請書類

資料1  
○補助メニューごとの検討事項  
A. つつじ  
B. くすのき  
C. ハード